

登米市総合教育会議 会議録

会議の名称	第14回登米市総合教育会議	
開催日時	令和5年1月20日(金)	
	午後 1時30分	開会
	午後 2時42分	閉会
開催場所	登米市役所 3階 第4委員会室	
出席者 氏名	市長	熊谷 盛廣
	教育長	小野寺 文晃
	教育長職務代理者	畠山 信弘
	教育委員	小野寺 範子
	教育委員	大久保 芳彦
	教育委員	佐竹 美香
	教育委員	須藤 勝子
欠席者		
傍聴者		
事務局職員氏名	総務部長	平山 法之
	市長公室副参事兼室長補佐	遠藤 林市
	教育部長	小林 和仁
	教育部次長兼教育総務課長	菅原 正博
	教育部次長兼学校教育管理監	飯川 弘芳
	学校教育課長	高橋 正晴
	生き生き学校支援室長	鈴木 司
	教育支援センター所長	笠原 英康
	学校再編推進室長	白岩 登世司
	生涯学習課長	山形 敦
	文化財文化振興室長	日野 裕子
書記	教育総務課 課長補佐	津藤 順
議題	(1) 令和5年度教育行政の方向性について	

() は、発言なし部分

議題・ 発言	(司会) 菅原次長	定刻となりましたので、ただいまから、第 14 回登米市総合教育会議を開会します。開会時間は午後 1 時 30 分といたします。 本会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 1 条の 4 第 1 項第 1 号で教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた協議、学術及び文化の振興を図るために重点的に構すべき施策について総合教育会議で協議や調整をすることとなっています。本日は、市長と教育委員会、両者の教育施策の方向性を共有するための会議であります。 はじめに、市長から開会のご挨拶を申し上げます。
	熊谷市長	本日は総合教育会議に出席をいただきまして誠にありがとうございます。 本日の議題は「令和 5 年度教育行政の方向性について」として、令和 5 年度登米市教育基本方針（素案）及びアクションプラン（素案）となっております。 本日は、教育委員の皆様と共に意見交換し、重要な教育施策の方向性を共有させていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いたします。
	(司会) 菅原次長	それでは、議事に入ります。議事の進行に当たりまして、熊谷市長に議長をお願いいたします。
	(議長) 熊谷市長	それでは、議題に沿って会議を進めます。 「令和 5 年教育行政の方向性について」を議題といたします。 事務局から「令和 5 年度登米市教育基本方針（素案）及びアクションプラン（素案）」について、説明をお願いします。
	菅原次長	(資料 1、資料 2 に基づき説明)
	(議長) 熊谷市長	ただいま、事務局から「令和 5 年度登米市教育基本方針（素案）及びアクションプラン（素案）」について説明がありました。 委員の皆様から、ご意見をお伺いいたします。
	(議長) 熊谷市長	はじめに畠山教育長職務代理者からお願いいたします。
	畠山委員	令和 5 年度登米市基本方針について、意見、感想を申し上げます。 はじめに施策の基本方針 1-1（豊かな人間性や社会性と健やかな体の育成）についてですが、不登校対策には 3 つの事業があり連携していると思いますが、まだまだ枠組みにとらわれ過ぎているように感じます。問題に対処する主役は児童生徒が所属する学校や家庭が中心であり、教育行政は、指導・助言・援助する基本原則を貫いてほしいと思います。つまり、児童生徒が所属する学校の主体性、責任を重んじる対応策を再確認していただきたいと思いました。 私なりに手順を考えてみますと、1 つ目として当事者が在籍している学校での事前対応策を構築することが大事であると思います。

議題・
発言

hyper-QU の結果等を活用しながら早期に児童生徒の個々の状況を把握し、対応策として居場所づくりや学級づくりに取り組む必要があると思います。2つ目に不登校等の予兆の段階で保護者との連携のもとに市教委に相談、連絡を行い早期に専門指導員、臨床心理士等の指導を受け対応を継続していくこと。3つ目に不登校が出現した場合に、保護者との連携のもと市教委、けやき教室等に連絡、相談を行い対応すること。このような手順を踏むためには学校の役割は重く、明確にすることが大切であると思います。

さくらの木の相談の様子を見させていただきましたが、学校での予兆段階の相談が少ないのではないかと感じました。出来るだけ早い段階で相談、指導が行われれば深刻な事態を未然に防ぐことが出来ると思います。不登校対策には保護者との緊密な連携のもとに学校側の迅速な対応が望まれます。

2点目としては、生徒指導状況報告の中で、長期病休の児童生徒が増加傾向にあり、朝は調子が悪いが午後には良くなるといった症状の規律性障害などが増えています。学校・保護者任せにせず、市教育行政の指導の在り方を構築し、専門医による講習会などの対応をすべきであると考えます。

次に施策の基本方針1-2（学ぶ力・自立する力の育成）についてですが、成績に学校格差を感じます。底上げ対策を確実にすれば、さらに向上すると思います。教育行政は学力が低い学校への個別の指導・助言・支援をすべきと考えます。

次に施策の基本方針1-3（特別な支援を必要とする子供へのきめ細かな教育の推進）についてですが、特別支援理解に関する研修会について主要事業にも盛り込むべきと考えます。

次に施策の基本方針2-1（信頼される魅力のある教育環境づくり）についてですが、学校設置者は、首長であることを踏まえ、令和5年度重点的取組の上段の文言に「市長との連携・助言のもと取り組みます」の文言が必要ではないかと思えます。

次に施策の基本方針2-2（学校・家庭・地域が連携・協働して子供を育てる環境づくり）についてですが、学校運営協議会の会長・副会長は、地域の住民です。地域の方々が事例発表会や情報交換会に参加してこそ、より良い学校運営協議会ができるものと思います。教育行政の基本に「説明責任の徹底や地域住民の参画の拡大」があります。是非、学校関係者だけでなく、地域住民の参画の拡大を期待します。事務事業点検評価において学識経験者の意見として、「これからのこの事業の目標は学校運営協議会を開催することではなく、そこで何を話し合い、それを学校運営にどのように生かすことができるかである。そのために必要なことは何かを評価の方法も含めて検討する必要がある」と記載しております。

次に施策の基本方針3-1（心豊かな生活に向けた生涯学習の充実）についてですが、基本的取組の10生涯学習機会の提供と人材育成は、市民一人一人の成長や地域の協働の在り方など、生涯学習の中核となる必要度の高い喫緊の課題と考えます。人材育成や学習機会の提供についても取り組んでいただきたいと思います。

次に施策の基本方針3-2（地域の活力を醸成するスポーツ活動の推進）についてですが、広報とめにも登米市民の健康について記

<p>議題・ 発言</p>	<p>(議長) 熊谷市長</p> <p>白岩学校再編 推進室長</p> <p>(議長) 熊谷市長</p> <p>小野寺委員</p>	<p>載されておりましたが、子供の体力・運動能力の向上は登米市の将来を担う子供達にとって重要課題であり、学校・家庭・地域の協働の中で培われ、長期の期間を要する地道な取組の中で成果が得られる施策であると思われます。単発的な事業では到底子供の体力・運動能力の向上に寄与したものとは思われませんので、令和5年度の重点的取組「子供の体力・運動能力の向上」に焦点を当てた事業を推進すべきであると思います。</p> <p>次に施策の基本方針3-3(文化財保護と文化・芸術活動の充実)についてですが、歴史資料等の調査研究のための専門職員の増員やボランティアを募るなどして、事業がスピード感をもって推進できるようにしてほしいと思います。</p> <p>総括意見として、登米市では県教育委員会から割愛人事により5人の優秀な教員が教育委員会に配置されております。しかも、指導の専門家であるので多くの課題解決に貢献していただいているようです。また、学校の県費負担教職員は資格を持った専門性のある人達に担っていただいているので、大変良いことであると思います。一方、社会教育分野では市民7万人弱を対象にした広範囲で事業も多岐に渡っていることから、成果を上げていくためには職員の増員も必要と考えます。社会教育主事や専門的分野で力を発揮できる学芸員などの職員の採用にも力を入れていただきたいと思ます。</p> <p>畠山委員の意見の中で施策の基本方針2-1の市長との連携について事務局はどのように考えていますか。</p> <p>学校は地方公共団体のみが設置することができるとされております。学校設置者は市長となりますので意見を参考に重点的取組の中に、「市と連携のもと」と追記を行いたいと考えております。</p> <p>次に、小野寺委員からお願いします。</p> <p>施策の基本方針1-1(豊かな人間性や社会性と健やかな体の育成)についてですが、行きたくなる学級づくりでの絆づくりは、コロナ禍で先生と保護者とのコミュニケーションが難しい3年だったと思います。コロナ禍の弊害での不登校もあると思いますが、絆づくりは児童生徒間だけでなく先生と児童生徒、先生と保護者の絆づくりも重要だと思ます。</p> <p>次に施策の基本方針1-2(学ぶ力・自立する力の育成)についてですが、今年度は幼保再編推進事業が進んでいないように感じます。市内幼稚園5園のうち北方幼稚園と米山幼稚園が土曜日保育を行っているので、市として全園を土曜日も預かる保育所型にしてはどうかと考えます。職員もすべて同じ働き方になると思ます。</p> <p>また、教育委員会を実施している登米市の幼児教育・保育施設に係るニーズ調査の結果についても反映していただきたいと思ます。</p> <p>次に施策の基本方針1-3(特別な支援を必要とする子供へのき</p>
-------------------	---	--

め細かな教育の推進) についてですが、就学児健診での支援を伴う子が多くなっている昨今、以前から行っていると思いますが子育て支援課との連携強化が必要と感ずますし、切れ目のない支援を継続していただきたいと思ひます。

次に施策の基本方針2-1(信頼される魅力のある教育環境づくり) についてですが、初任の先生方はコロナ禍での採用ですのでコミュニケーションの取り方などについて、教育委員会としても手厚く研修を行っていただききたいと思ひます。

2点目に津山小学校の開校が良い事例となり、他地区の再編構想が円滑に進むように取り組んでいただきたいと思ひます。

次に施策の基本方針3-1(心豊かな生活に向けた生涯学習の充実) についてですが、アクションプランの「積極的に地域社会に関わる新たな人材育成」とありますので、シニア世代の指導者育成等について、宮城県のように生涯学習指導支援者の登録について検討していただきたいと思ひます。

また、図書館整備については、多くの市民が待ち望んでいる事業ですので早期に整備できるよう進めていただきたいと思ひます。

施策の基本方向3-2(地域の活力を醸成するスポーツ活動の推進) についてですが、スケートボード場について若者会議からの意見が実現するのは素晴らしい事だと思ひます。他市町村からの利用者により登米市の観光等にも寄与すると思ひます。涌谷町ではBMXの施設に全国から訪れているようです。若者達はSNSで発信された情報により良い施設があれば遠くからでも訪れると思ひますし、オリンピック競技ですので趣味だけではなく競技大会ができるような施設になれば良いと思ひました。

次に施策の基本方針3-3(文化財保護と文化・芸術活動の充実) については、現在小学校の運動会や生活発表会等での地域の伝統芸能の発表も多く行われています。伝統芸能等の伝承の担い手の育成についても継続的に行っていただきたいと思ひます。

(議長)
熊谷市長

次に、大久保委員からお願いします。

大久保委員

施策の基本方向3-2(地域の活力を醸成するスポーツ活動の推進) についてですが、スケートボードは競技人口が約3千人、愛好者が約40万人と言われております。私はスケートボードに反対している訳ではありませんが文言として、幅広い世代が集うとありますが、幅広い世代とは子供から老人までを表しますので、さすがに老人までは難しいと考えますので文言整理が必要と思ひました。

2点目は教育行政の直近の課題のひとつとして、部活動の地域移行が検討されています。このような状況の中、令和5年度以降の休日の部活動の段階的移行に向け、指導者の確保が喫緊の課題であると考えます。今後の進め方としてスポーツ少年団や総合型スポーツクラブ、体育協会等と連携していくこととなると思ひますが、部活動を支えていくための準備段階に入っていく必要があると思ひます。スポーツ少年団の指導者が令和2年度で428人となっておりますので、指導者の育成や資質向上等についても重点的取組としても

良いと思います。

3点目として、登米市はトキと共生する里地づくり取組地域に選定されていますし、ラムサール条約に登録されている伊豆沼、内沼や蕪栗沼があります。北上高地にはイヌワシが生息していると言われております。環境を中心とした産業、歴史、文化を学べる学習環境の整備を行うべきと考えます。現在は総合学習の中で点として行われていますが、第2期登米市教育振興基本計画の基本的取組1の中で、志教育地域推進事業や総合的な学習時間等の活用としてふるさと学習が記載されていますし、基本的取組9のコミュニティ・スクール推進事業、基本的取組16の文化財の保存・継承についても記載されています。このことから学習環境の整備を行い、ふるさと教育の充実を図っていく必要があると考えます。充実を図ることで登米市教育大綱の目指す姿に近づくことが出来ると思います。

(議長)
熊谷市長

次に、佐竹委員からお願いします。

佐竹委員

施策の基本方向2-1(信頼される魅力のある教育環境づくり)についてですが、教員が学び続けるための体系的な研修の推進において、令和4年度は12回の研修会を開催されていますが、研修会後のアンケートで「大いに参考になった」との回答をした割合が平均8割であるという結果から、研修内容が先生方の求めているものになっているのかをぜひ検討していただきたいです。研修を受ける先生方が何を学びたいのか、どのような研修を受けたいのかを聞き取り研修に反映していただきたいと思います。

また、どのような研修会を開催しているのかを見える化していただきたいと思います。研修内容が分かることで先生方を保護者が理解することができ、児童生徒の学力向上にもつながっていくと思います。研修が充実し登米市の教員の質が上がることで、児童生徒の学力の向上につながることを期待いたします。

次に施策の基本方向3-1(心豊かな生活に向けた生涯学習の充実)についてですが、生涯学習を支援する環境づくりの推進における「新たな図書館の整備」の取組について、教育委員会が主催となり開催された講演会・ワークショップは大変意義あるものとなったと思います。市民の強い要望に真摯に答えるという姿勢では市民の評価は高かったと思います。

市民が求めているものは新しい図書館が整備され、その中で何が行われているかが大切であると思います。綺麗な図書館が出来たからといって人が集まるものではなく、その中で何が行われていくのか人づくり人材育成が大事になっていくと思います。運営していくためには優れた人材の確保も大切なことと思います。

令和5年度は図書館整備に向けて、より具体的に事業が進むことを期待いたします。

(議長)
熊谷市長

次に、須藤委員からお願いします。

須藤委員

施策の基本方針 1-1 (豊かな人間性や社会性と健やかな体の育成) についてですが、先月の教育委員会定例会議で報告がありました。登米市の小中学校の令和 4 年 11 月末での不登校児童生徒は、小学校 41 名・中学校 97 名の計 138 名でありました。その内、さくらの木を利用している児童生徒は 25 名との報告でありました。職員やカウンセラー、担任等の努力で、さくらの木等の利用者数は昨年度より増加してきていることについては評価できますが、小中学校において、不登校児童生徒が増えている実態があります。知恵を駆使し、又職員を増やす等の様々な手立てを考え、働きかけて居場所づくりを行い、不登校が解消できるようにしていただきたいと思いをします。

以前に特別支援の研修を受けた際に、その学校では子供達に楽しいことを沢山経験させていました。普通の学校より多く経験させていました。なぜこのような経験をさせるのか聞いたところ、社会は厳しいので、この子供達は学校で楽しい経験をするのが生きて行く上での自分の豊かな心の在り方となり、生きて行くことができるということでありました。

不登校の児童生徒は、学校での運動会や学芸会、修学旅行等の楽しい経験をしないまま社会に出ることになるので、何とか居場所づくりを行い楽しい経験ができるようにしていく必要があると思いをします。

次に施策の基本方向 2-1 (信頼される魅力のある教育環境づくり) についてですが、小学校の統合と同時に、中学校の統合等について全ての町域で説明会を実施されました。今後どうすれば良いのか、市民全体で考えていく機会を作っていることは大変良いことと思いをします。中学校の統合に向けて、生徒や保護者、住民が主体となり、より良い新しい中学校を目指していく良いスタートがきれたと思いをします。

次に施策の基本方向 3-1 (心豊かな生活に向けた生涯学習の充実) についてですが、新たな図書館整備の取組について、令和 5 年度中に (仮称) 図書館整備推進委員会を立ち上げ、取り組みがスタートできることは、大変喜ばしいことでもあります。昨年 6 月から 7 月にかけて、中学生以上の市民を対象にアンケートを実施し、2,000 名近くから返答が寄せられたのは、市民の新しい図書館への関心の高さを表していると思いをします。アンケート結果を公表しワークショップや講演会・研修会、先進図書館の視察等を実施しており、多方面からより良い図書館を作っていこうとする姿勢が見受けられます。行政だけで進めるのではなく、市民や図書館ボランティア等の力も借りながら、市民主体で運営ができるよう工夫を凝らしていく必要があると思いをします。

先ほどの大久保委員の話されたことに関連いたしますが、私も登米市の環境関連の取組に関わってきました。登米市には多くの渡り鳥、マガンや白鳥、鴨などが飛来します。先日もマガンの調査が行われましたが、マガンの時間に合わせ午前 4 時に集合し調査を行いました。登米市には 35 万羽が飛来しており、蕪栗沼には 10 万羽ものマガンで一面が真っ黒になる状況でありました。

トキを研究している方の研修会が開催された際には、トキの目撃

(議長)
熊谷市長

等の情報を集め、より生息しやすい環境づくりを毎日行っているとのことでありました。その方は、「登米市では多くの渡り鳥が飛び交っているのに誰も空を見上げない」ことに大変驚いていました。登米市に飛来する渡り鳥が当たり前ではなく、素晴らしい財産であることを認識し伝え発信いく必要があると思いました。

5人の委員から大変貴重な意見をいただきました。

畠山委員から不登校には予兆段階が必ずあるとの話をいただきました。現在も対策を行っているがまだまだ機能していないのではないかと意見でありました。不登校が増加傾向にあることを踏まえ、家庭、学校及び教育委員会が予兆段階を見極めることが必要となっていると思いますので、今後も不登校対策について継続的な取組を行っていきたいと思います。

次に学校格差の問題であります。私も底上げ対策が必要と考えております。教員の資質向上や家庭学習の充実等の対策を行っておりますが、学力向上等には時間がかかりますので継続的に行っていきたいと思います。

次に図書館整備については、市長就任時に行った移動市長室において多くの方から意見をいただきました。特に若い子育て世代の方からは子供を連れて行くことのできる図書館整備の要望をいただきました。子供を連れて行き、子供を遊ばせ親同士の交流が生まれるようなスペースがある図書館が欲しいとの要望でありました。当時、図書館は勉強や静かに読書をする空間との認識でしたので大変驚きました。

私と教育長の方向性は一致しておりますので、今後どのような図書館が求められているのかを確認しながら図書館整備を進めていきたいと考えます。

次に子供の体力・運動能力の向上についてですが、コロナ禍のため運動にも制限があり体力の低下が心配されます。早く新型コロナウイルス感染症が落ち着き、前のように外で遊べるようになることで体力や運動能力も戻ってくると思います。

小野寺委員から伝統芸能の伝承についての要望がありました。コロナ禍により3年間祭りや発表イベント等が中止されています。先日も登米町の方と「とよまの秋祭り」について話しました。これまでは、町内会において毎年山車を作成してきたが、3年間の中止により、作成技術の伝承もできない状況であり、高齢化や少子化の状況からも山車を作成することができなくなる可能性があるとのことでありました。途絶えてしまった伝統を復活させることは大変難しいこととなりますので、伝統芸能や伝統文化を伝承していく担い手の育成にもつながる、発表イベントや祭りの開催ができるようにしていきたいと思っております。

大久保委員からスケートボード場についての意見がありました。オリンピック開催前から要望が出されておりました。親子で楽しむことのできるスポーツでありますので、早期の実現ができるように進めていきたいと考えております。

佐竹委員から教員の研修会についての意見をいただきました。非常に大切で必要なことと思っております。教育長はどのように考えていま

		<p>すか。</p>
	小野寺教育長	<p>教員の資質向上には欠かすことのできないものと思います。教員には研究と修養が求められていますので重要視していく必要があります。今までとおりの研修会で良いのかの検討を踏まえ、ニーズや教師の資質をしっかりと捉えながら工夫を行い、研修会の質を高める努力を行っていきたいと思っております。</p>
	(議長) 熊谷市長	<p>須藤委員からの意見の中で、小中学校生活の中で楽しい経験をする事の大切さを改めて認識させていただきました。学校は勉強するところという考え方もありますが、感受性の高い時期に楽しいことを経験することで社会に出てからの糧になると思いました。</p> <p>図書館については先ほども述べましたが、図書館運営については市民に参加していただきたいと考えますが、図書館の在り方を検討していく(仮称)図書館整備推進委員会の構成はどのように考えていますか。</p>
	小林教育部長	<p>(仮称)図書館整備推進委員会の構成についてはこれからの決定になりますが、市民団体や図書に関する団体からも意見をいただいているところでありますので、広く進めて行けるようにしていきたいと思っております。</p>
	(議長) 熊谷市長	<p>教育委員の皆さんの意見を聞きながらより良い方向に進めて行っていただきたいと考えます。</p> <p>その他にご意見ございますか。</p>
	畠山委員	<p>新図書館構想についてですが、現在、米山地区の小学校整備を含めた、米山地区公共施設複合化整備事業が進めれております。限られた面積の中に最高の教育環境を作るため、いろいろな知恵を出し合いながら進めていると思っております。</p> <p>先月開催された講演会での講師先生が最低でも大崎市図書館との発言がありました。大崎市図書館は整備費 32 億円、敷地面積 6,000 m²で駐車場は 100 台、不足分は近隣駐車場を借用しているとのことです。</p> <p>本市の新図書館整備も場所や予算が決定していない状況で必要なものを並び立てるなど、構想が先走りしないように手順を踏んで進めていく必要があると思っております。</p>
	(議長) 熊谷市長	<p>私の考える図書館は、登米市の身の丈に合った図書館、整備にあたっては財政規模等を考慮し、国からの補助金等を活用しつつ教育長、教育委員会と協議を行いながら整備を行っていきたいと思いません。</p> <p>その他にご意見ございますか。</p> <p>(「なし」の声あり)</p>

<p>(議長) 熊谷市長</p>	<p>それでは、「令和5年度登米市教育方針(素案)及びアクションプラン(素案)」の協議は、これでよろしいですか。</p> <p>(「はい」の声あり)</p>
<p>(議長) 熊谷市長</p>	<p>それでは、「令和5年度教育行政の方向性について」は、ただいま協議した内容で整理し、必要に応じて事務局はその内容について、教育委員会議で、教育委員の皆様を確認をいただくようお願いします。</p>
<p>(議長) 熊谷市長</p>	<p>議題についてはこれで終了とし、進行を司会に戻します。</p>
<p>(司会) 菅原次長</p>	<p>その他といたしまして、事務局では特にありませんが、委員の皆様から何かございますでしょうか。</p> <p>(「なし」の声あり)</p>
<p>(司会) 菅原次長</p>	<p>それでは、以上をもちまして、第14回登米市総合教育会議を終了とさせていただきます。 閉会時間は午後2時42分といたします。 お疲れ様でした。</p> <p>(午後2時42分、閉会)</p>